

第1期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

人間文化研究機構

平成23年5月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、3項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、3項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期目標で「共同研究を推進し、高度な研究成果の創出に努める」としていることについて、各機関において、様々な共同研究を推進して、優れた成果が得られており、例えば、国文学研究資料館においては、法人化を機に開始した共同研究プロジェクトから、『夫木和歌抄 編纂と享受』等、研究者コミュニティからも高く評価される5点の高度な研究成果を出版するとともに、「日本古典籍総合目録」等のデータベースを構築していることは、日本文学研究の重要な基盤形成を果たした点で、優れていると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。
平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」であることから判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画で「多様な形態の研究が推進できるよう、研究組織の見直しを行い、以下のような研究実施体制の整備を進める」としていることについて、各機関において、研究推進センターや研究戦略センターを設置するなど、機能強化や柔軟な研究実施体制を整備したことは、研究活動の活性化を促進し、高い質が維持されている点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「多様な形態の研究が推進できるよう、研究組織の見直しを行い、以下のような研究実施体制の整備を進める」としていることについて、総合地球環境学研究所において、研究推進戦略センターを整備し、研究プロジェクトの立ち上げから、その支援、研究成果のアーカイブと発信業務を一貫して行う体制を整えたことは、特色ある取組であると判断される。

(Ⅱ) 共同利用等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「共同利用等に関する目標」に係る中期目標(3項目)のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「共同利用等に関する目標」に係る中期目標(3項目)のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 共同利用等の内容・水準に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「共同利用等の内容・水準に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」とし、この結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>**(優れた点)**

- 中期計画で「各機関のデータベースを結合するシステムを機能的に構築」していることについて、当該機構において、各機関の各種データベースを統合するため、研究資源共有化システムを構築したことは、共同利用促進に貢献した点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「新しい総合的資料管理システム及びデジタル・アーカイブズの開発により、効率的な資料の保存と活用を図る」としていることについて、国立民族学博物館において、薬剤を使用しない新たな燻蒸方式を開発したこと、また、文書資料のデータベースをウェブサイトで公開していることは、特色ある取組であると判断される。

② 共同利用等の実施体制等に関する目標**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「共同利用等の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「おおむね良好」であることから判断した。

<特記すべき点>**(優れた点)**

- 中期計画「全国の大学・研究機関等並びに研究者に対し、各機関の所蔵資料の利用を促進する体制及びそのための設備を整備する」について、国立歴史民俗博物館において、平成 16 年度に研究者への資料の「即日閲覧」を開始するとともに、毎年度、画像デジタル化や対象資料を増加させたことは、所蔵資料の提供の迅速化・充実が図られている点で、優れていると判断される。

③ 共同利用等に関するその他の目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「共同利用等に関するその他の目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。
平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「おおむね良好」であることから判断した。

＜特記すべき点＞

(特色ある点)

- 中期計画「共同利用者に対する情報提供システムの構築、出版・研究集会等を通じた双方向的な情報や成果の共有、共同利用に関する積極的な情報公開等を進める」について、当該機構のウェブサイト、公開講演会・シンポジウムの結果をまとめた冊子を掲載して、広く社会に向け情報発信を行ったことは、特色ある取組であると判断される。

(Ⅲ) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（2 項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（2 項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 大学院への教育協力に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「大学院への教育協力に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。
平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「おおむね良

好」であることから判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

- 中期計画で「総合研究大学院大学との協定に基づき、同大学院博士課程教育を、充実した研究環境を活かして、各機関の基盤的研究と一体的に協力・実施する」として
いることについて、国立歴史民俗博物館における日本歴史研究専攻において、博物館
機能を活用するために教育カリキュラムを大幅に改定したこと、また、集中講義を他
大学等にも門戸を広げたことは、特色ある取組であると判断される。

② 人材養成に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「人材養成に関する目標」の下に定め
られている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であったことか
ら、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「おおむね良
好」であることから判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

- 中期目標「各機関において積極的に国内外の若手研究者の参加を促進し、それぞ
れの基盤研究領域並びに関連する研究分野における次代の研究者の養成を図る」につい
て、国立民族学博物館を筆頭に、日本学術振興会の特別研究員等、若手研究者を積極
的に受け入れていること、また、大学院生を正規の研究分担者として共同研究へ参加
させたりするなど、人材養成に寄与していることは、特色ある取組であると判断され
る。

(IV) その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1 項目）
が「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

- 中期計画「諸外国の研究機関等との関係の構築を図り、(中略)国際研究集会・国際シンポジウムの開催やそれへの研究者の参加を積極的に支援する体制を促進する」について、国際日本文化研究センターにおいて、毎年海外でシンポジウムを実施し、海外での日本研究の促進及び海外日本研究者の育成に貢献したことは、特色ある取組であると判断される。